

武蔵野美術大学の学長と宮城県内の中高生が フィールドワークをして描いた石巻・女川の絵画を一挙に公開！

「樺山祐和と描く 森と海の美術展」来年1月10日(土)から開催

イベント初日は開場式と樺山学長によるギャラリートークを実施



樺山祐和作「際」(左・2025年)、「顯」(右・2024年) 二作とも油絵・寸法 244×399cm

石巻市博物館は、**2026年1月10日(土)**から**3月15日(日)**まで、三陸の自然をテーマとした絵画を展示する企画展「樺山祐和と描く 森と海の美術展」を開催いたします。

この展覧会は、2024年5月に石巻市と武蔵野美術大学(東京都小平市)が締結した「石巻市博物館を核とした文化芸術振興に関する連携協力協定」に基づく事業で、学長・大学生・中高生合同のフィールドワーク(スケッチ)や、学長による中高生の作品の講評等の2年間のワークショップの成果発表の場となっています。

展覧会初日には開場式と学長によるギャラリートークを行うほか、武蔵野美術大学の大学院生・卒業生(若手作家)の作品も、1930年にデパートとして建てられた旧觀慶丸商店(石巻市指定文化財)にて展示します。

【展覧会ホームページ】 <https://www.city.ishinomaki.lg.jp/museum/event/070/20251204120104.html>

フィールドワークから作品制作、展覧会までの流れ

① フィールドワーク

武蔵野美術大学の樺山祐和学長・加藤幸治教授(民俗学者)・大学院生・卒業生と中高生が一緒にトレッキング、ガイド、スケッチを行い、石巻の自然を体感・観察することで、作品制作の題材を見出します。

2024年度は石巻市の牡鹿半島にある給分浜・御番所公園・のり浜、2025年度は石巻市の雄勝にある波板海水浴場と女川町の出島を訪れました。



<報道関係の方からのお問い合わせ先>

石巻市博物館 広報担当:小野 TEL: 0225-98-4831 MAIL: culcenter@city.ishinomaki.lg.jp

② 中間講評

中高生がフィールドワークで描いたスケッチや制作中の作品等を持ち寄って、今後制作したい作品のコンセプトや進み具合等を発表し、大学院生・卒業生や学長からアドバイスをもらう美術大学独特的指導方法です。自分の作品のコンセプトや技法について第三者からアドバイスをもらうとともに、自分と異なる視点や考えに触れることができる貴重な機会です。

③ オープンアトリエ

中高生と大学院生・卒業生の希望者が画材を持ち寄り、マルホンまきあーとテラス内にあるアトリエで、企画展に出品する作品と一緒に制作します。

参加者が互いに刺激を与えながら制作を進めることができ、中高生は院生・卒業生から適宜アドバイスをもらうことができます。

アトリエの出入りは自由で、作品制作の参考や気分転換のために、すぐ近くにある博物館の展示も自由に観覧することができます。



④ 講評・作品コメントの執筆

中高生が完成させた作品を樺山学長に講評してもらいます。

また、中高生が加藤教授のアドバイスを受けながら、来館者が読むことを想定して、作品のコンセプトやモチーフ、工夫した点や取り入れたアドバイス等を書き言葉にまとめます。



⑤ 展覧会での作品の発表

中高生が話し合い、協力しながら、自分たちの作品を順番や高さなどを工夫して展示していきます。

また、講評時に書いた作品コメントや作品名等をまとめたキャプションも自分たちで作成します。

展覧会の見どころ

- ① 牡鹿半島の給分浜、御番所公園、のり浜や雄勝の波板海水浴場、女川の出島の景色や風土を追体験できるような絵画作品が展示されています。
- ② 絵画を鑑賞することで、中高生と樺山学長それぞれが対話し、感じ取っていた多様な石巻の森と海の魅力に触ることができます。
- ③ 樺山学長が長年描き続けてきた木や森を描いた絵画作品がお客様を取り囲むように展示されており、まるで森の中にいるような体験ができます。
- ④ フィールドワーク等のワークショップについて知ることで、石巻の自然に向き合い、親しむアプローチを知ることができます。
- ⑤ 樺山学長がワークショップの中で語った言葉も展示されているので、絵画や自然をより深く理解するきっかけが得られます。

<報道関係の方からのお問い合わせ先>

石巻市博物館 広報担当:小野 TEL : 0225-98-4831 MAIL : culcenter@city.ishinomaki.lg.jp

関連イベント

開場式・ギャラリートーク

日 時 1月10日（土）8時50分から

場 所 石巻市博物館前ロビー空間・企画展示室

内 容 開場式では、石巻市教育長・武蔵野美術大学樺山学長による挨拶と来賓紹介が行われます。その後のギャラリートークでは、加藤教授がワークショップの概要を話し、樺山学長が展示室で作品を前に絵画や石巻の自然について語ります。



トークイベント「樺山祐和学長が語る、中高生とともに描いた石巻」

日 時 2月28日（土）13時から14時30分まで

場 所 石巻市博物館企画展示室

講 師 武蔵野美術大学 学長 樺山祐和 氏

その他 要チケット(参加は無料)、予約不要。

当日直接会場へお越しください。



同時開催展「MORI to UMI -若手作家・デザイナーたちによる『森と海の美術展』」

日 時 1月10日（土）から1月19日(月) 9時から17時まで

※13日(火)休館

場 所 石巻市指定文化財 旧観慶丸商店 1階 文化交流スペース

〒986-0822 宮城県石巻市中央三丁目6-9

公式ホームページ：<https://kankeimaru.jp/>

観覧料 無料

内 容 ワークショップで中高生とともに石巻を歩き、作品制作の指導をした武蔵野美術大学の院生や卒業生による、もう一つの「森と海の美術展」。

その他 旧観慶丸商店には駐車場はありませんので、付近の石巻市かわまち立体駐車場(2時間無料)等をご利用ください。



陸の果てに立ち、いのちと向き合う—樺山学長の言葉

森と海が大胆に力強く出会っている場所が半島です。

半島は岬と呼ばれます。

みさきの「み」は神との深いつながりを表しているそうです。

そこは自然が赤裸々にその姿を露わにし、生と死を感じさせてくれる場所であり、その地に私たちは神性や生命の力を見てきたのです。

<報道関係の方からのお問い合わせ先>

石巻市博物館 広報担当:小野 TEL: 0225-98-4831 MAIL: culcenter@city.ishinomaki.lg.jp

そして現代人が忘れそうになっている大切ななものに再び気づくことのできる場所です。

今回、「顕」、「際」というタイトルの二つの作品を制作しました。

図らずも海と森を描くことになりましたが、この地を描いたことに深い縁と不思議を感じています。

中高生みんなの純粋で率直な表現や考えが聞けたことも楽しかったです。

表現することは世界との対話であり、同時に自分自身との対話でもあります。

一つの作品が多様な言葉を引き出すことや、自己の意識や感覚が生き生きとしていれば、どんな世界でも素晴らしいものに見えてくることを知ったでしょう。

この経験が今後に活かされることを信じています。

武蔵野美術大学 学長 横山祐和

展覧会概要

第1章 「横山祐和と描く ワークショップ「森と海の美術展」」

昨年度と今年度ワークショップに参加したのべ18名の中高生の絵画作品計21点を展示するとともに、フィールドワークの紹介映像、横山学長が語った言葉(横山語録)も展示します。

第2章 「横山祐和が描く 陸の果てに立ち、いのちと向き合う」

横山学長が昨年度と今年度のフィールドワークを基に森と海を描いた二枚一対の大作「顕」・「際」を、これまで描き続けてきた15点の木々の作品群とともに展示します。

会期 2026(令和8)年1月10日(土)から3月15日(日)

9:00～17:00(最終入館16:30)

※月曜休館。ただし、月曜日が祝日の場合は翌日休館。

場所 石巻市博物館 企画展示室

(宮城県石巻市開成1-8・マルホンまきあーとテラス内)

観覧料 一般 600円／高校生 300円／小中学生 200円

(20名以上の団体は2割引)

主催 石巻市博物館・武蔵野美術大学

展覧会チラシ



後援 tbc 東北放送、ミヤギテレビ、khb 東日本放送、仙台放送、河北新報社、三陸河北新報社(石巻かほく)、石巻日日新聞社、ラジオ石巻 FM76.4、(一社)石巻観光協会、(一社)石巻圏観光推進機構

監修者 武蔵野美術大学 教授 加藤 幸治(民俗学者)

<報道関係の方からのお問い合わせ先>

石巻市博物館 広報担当:小野 TEL: 0225-98-4831 MAIL: culcenter@city.ishinomaki.lg.jp

石巻市博物館について

「大河と海に育まれた石巻」をコンセプトにした展示を通して、石巻の歴史や文化を学べる施設。

常設展示室では、1万年前の縄文時代のアクセサリーや貝塚、全国有数の現存数を誇る石製の卒塔婆・板碑、市内を流れる北上川とその周辺の米蔵等を描いた江戸時代の絵図、昭和の漁業や暮らしの道具、石巻出身で戦争で早逝した彫刻家・高橋英吉の作品や、石巻出身の毛利総七郎が収集した10万点を超えるコレクションを入れ替えながら展示しています。

企画展示室では、美術、歴史、民俗、考古等様々なジャンルの展覧会を年に3回開催しています。

博物館が入るマルホンまきあーとテラス(複合文化施設)の設計は、大阪万博のシンボル「大屋根リング」を手掛けたことで知られる藤本壯介氏。

家々が連なるかのような外観は、昭和の北上川沿いの家並みをイメージしていると言われています。

白を基調とした空間、開放的な全長170mを誇るロビーは、全国から建築を志す学生が訪れるとともに、市民の憩いの場となっています。



<報道関係の方からのお問い合わせ先>

石巻市博物館 広報担当:小野 TEL : 0225-98-4831 MAIL : culcenter@city.ishinomaki.lg.jp